

デジタル時代の研究プロセスと 大学，大学図書館における 支援のあり方

慶應義塾大学 倉田敬子

オープンサイエンス？

- データ中心の科学

「科学」のあり方そのものの変化

➡ まだわからない，未制度化

- デジタル

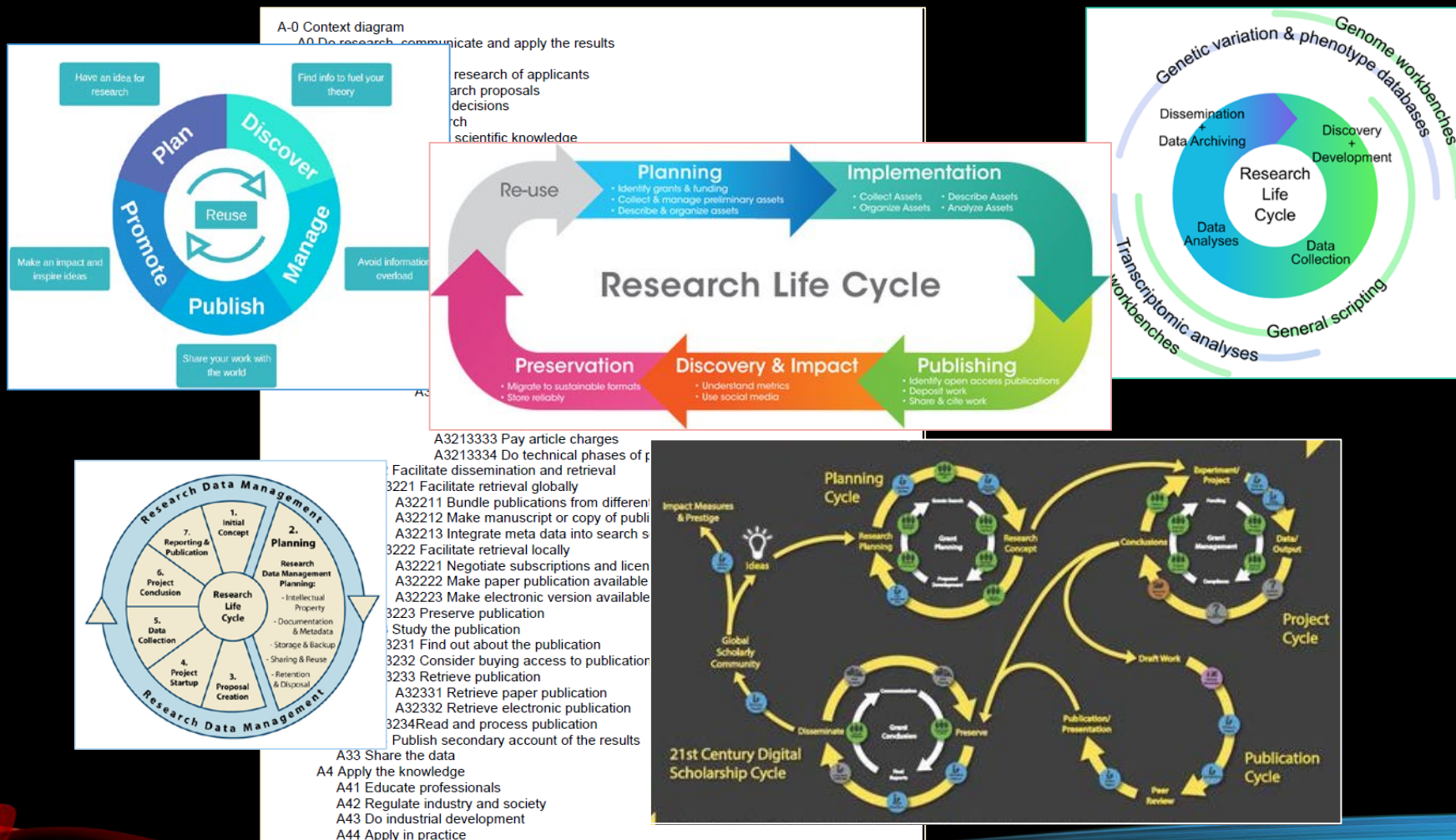
➡ 広い文脈での変化

- 共同，共有，協働

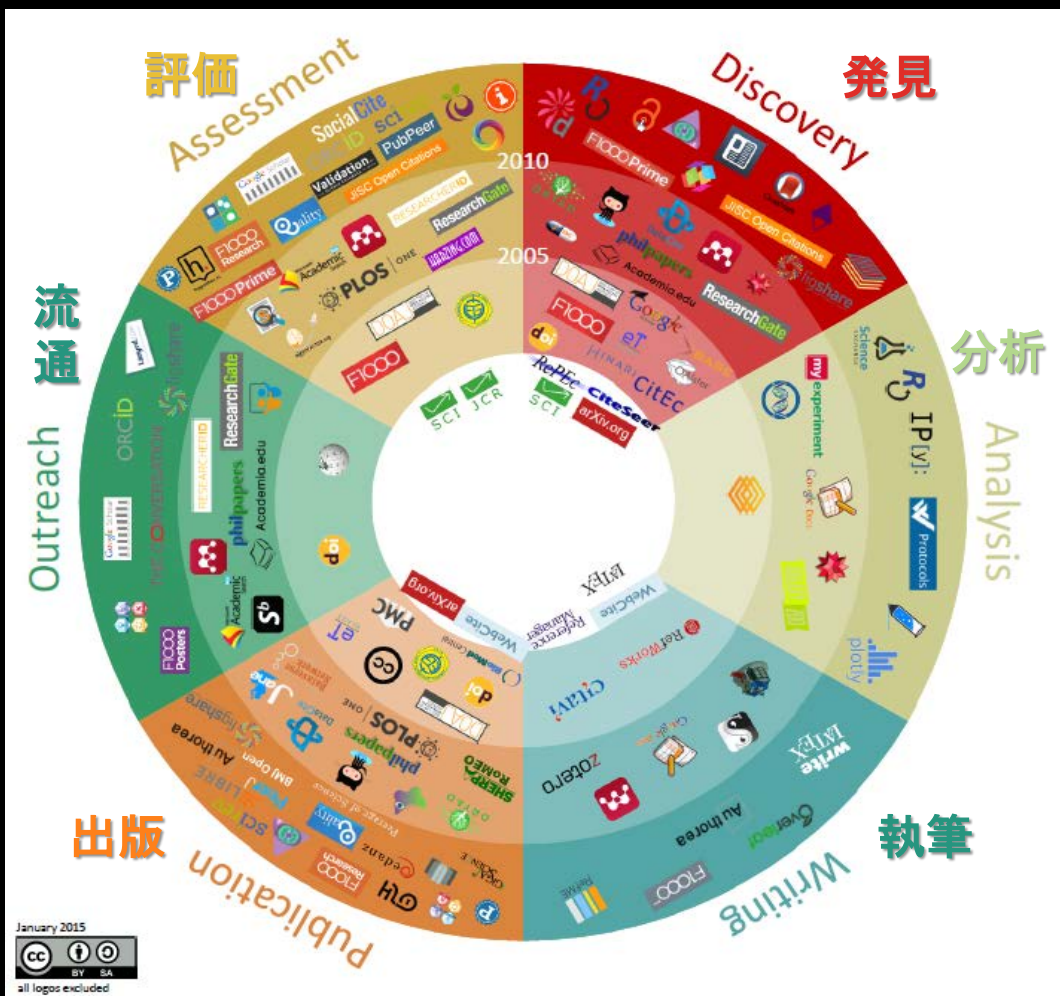
➡ 分野に依るが傾向は進展

Digital
Scholar
ship

研究のライフサイクル, ワークフロー



研究ワークフローの変化



KramerとBosman
学術コミュニケーションの101の新
機軸: 変化する研究ワークフロー

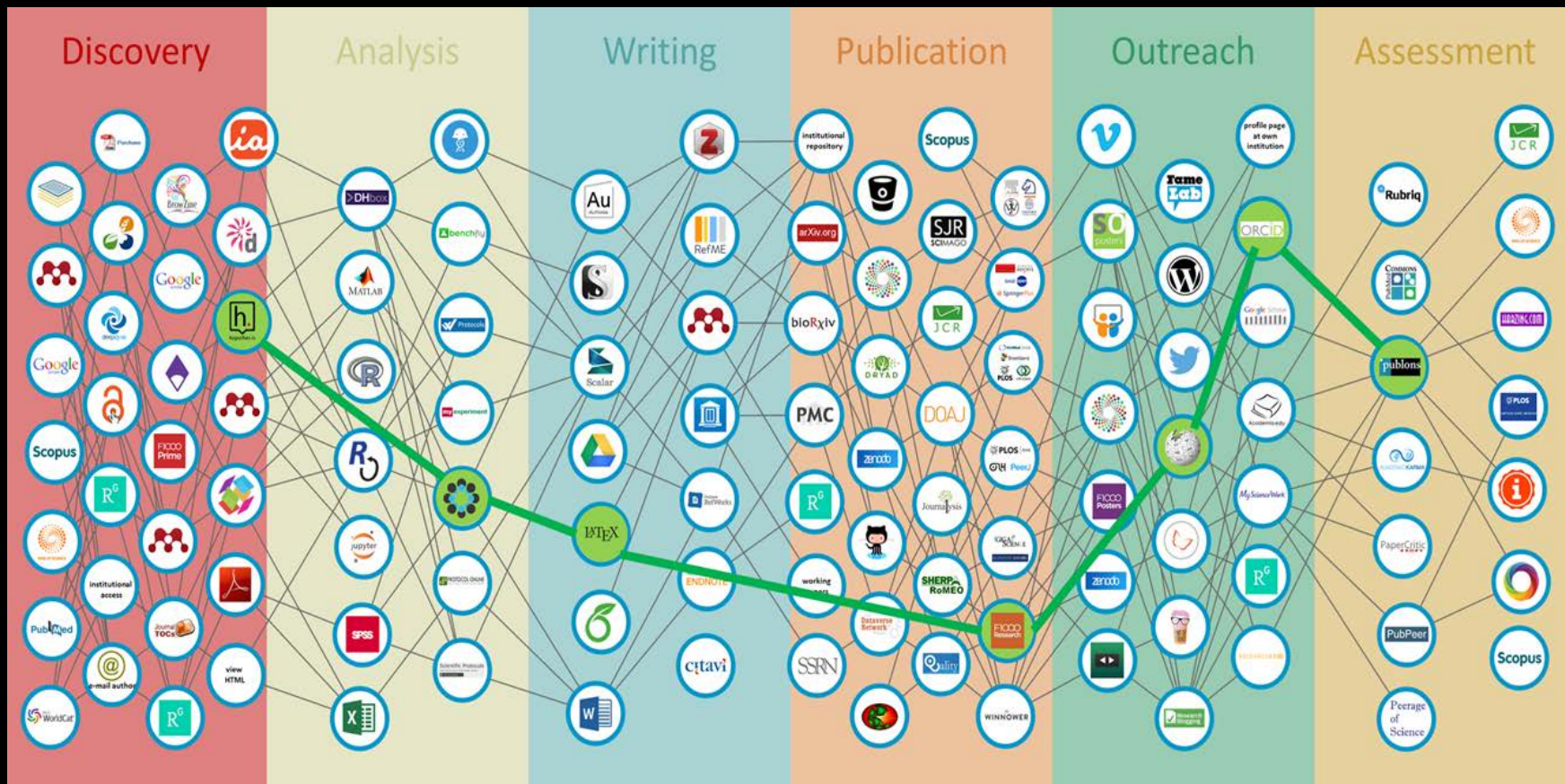
- 発見 WoS → Google, arXiv
- 分析 SPSS → **R** OpenSci GitHub
- 執筆 Word → Overleaf RefWorks
- 出版 nature → PLOS figshare
- 流通 doi Google scholar ORCID
ResearchGate
- 評価 JCR → Altmetrics

* 現在ポスター以外の情報はアクセス不可

Kramer B, Bosman J. 101 Innovations in scholarly communication [Internet]. Utrecht, Netherlands: Force 15; 2015.
<https://figshare.com/articles/101_Innovations_in_Scholarly_Communication_the_Changing_Research_Workflow/1286826>.

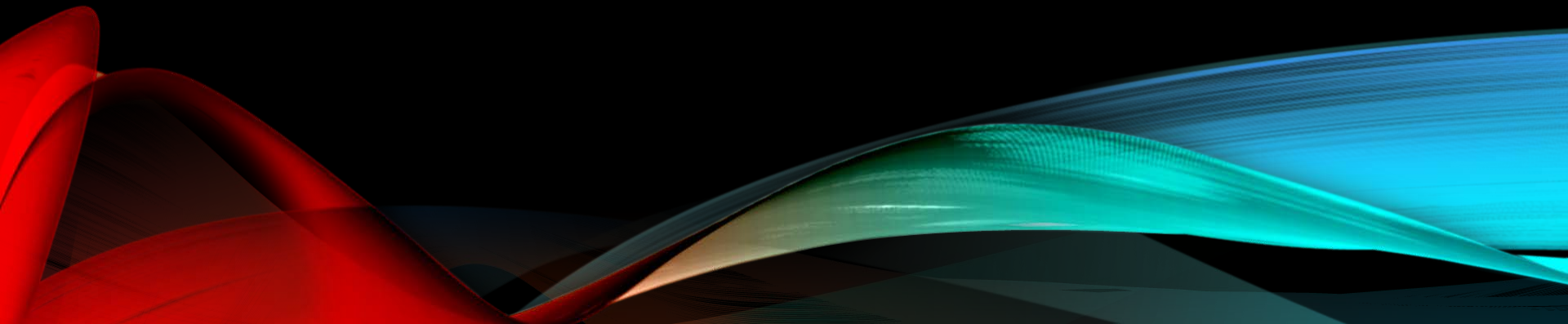
2018年2月21日(水)

多様な要素からの選択



Fiona Murphy and Maryann Martone. Mind the Gap: Addressing the Glitches in the Research Workflow or 'Scholarly Commons: From Theory to Practice' *FORCE2017, Berlin, 26 October 2017*

一人の研究者として



多様な目的, 役割, 作業の同時進行

- 教育: 自分の研究が土台
研究者の育成の役割も
- 大学, 学会における運営:
デジタル化の影響は同じ
研究を応用できる側面もなくはない
- 研究プロジェクト: 3~5が同時並行
目的もステップも異なる

発見にも複数の側面

- 情報探索：完全デジタル

- ◆データベース, OPAC, Google Scholar
雑誌, ブログ, MLのモニタリング

- ★ResearchGate 引用から関連文献提供

- ★figshare 学会等のスライド

- カレントアウェアネス

研究計画の最初と最後に網羅的探索

情報の収集，理解，整理

- 入手は情報メディアにより紙も
図書/日本語論文
- 読む 紙が優位 デジタルも増加
記録 アイデアメモ 文献注釈
講演のテーマ 論文の骨格
- ★読み，整理，メモをもっと統合化したい！
共同研究は特に

調査計画

- 先行研究の調査方法，質問票など
従来，情報として参考

➡ 個票データが入手可能

調査計画のやり方が変わるのか？

- 研究助成，倫理委員会，今後はDMP
煩雑な書類，手続き
もちろん助けて欲しい…

調査の実施，分析，保管，共有？

●データのバージョン管理

無数にできるファイル

分析ソフトごとに出力形式が異なる

分析ツール・方法の共有？

共同研究でのデータのやりとり

★Dropbox, Wiki, Dropbox paper・・・

➡ Zenodo, figshare 公開

執筆, 発表

- 研究論文の執筆

アイデア, 先行研究, 調査結果, データ
を論理的にまとめる

共同研究では完全に共同執筆

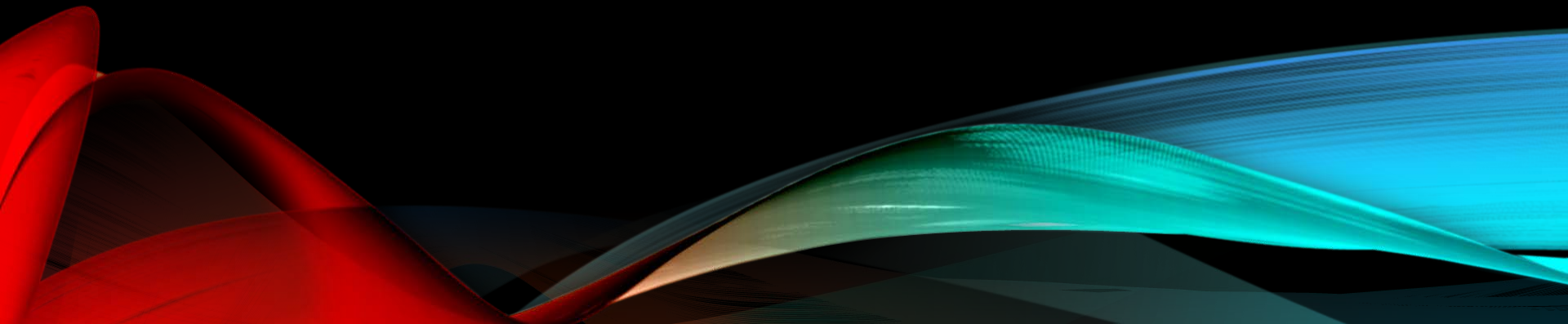
- 英文校閲, 引用文献: 業者を利用

- 投稿: 結構面倒, システムでやり方違う

流通 outreach

- Google Scholar : 発表後すぐにメール
確認すれば業績リストに追加
引用も知らせてくれる
- Research Gate : 登録
ORCID : Scopusと連動
×大学の研究成果データベース
ウェブ上で項目ごとに入力

大学，大学図書館による支援



大学図書館による研究支援例

- 研究助成, 研究計画
NIHの方針, ORCID登録
DMP チュートリアル提供なども
- 情報探索
インストラクション, 文献収集・提供
- OAJ, APC, 著作権規定等の情報提供
- IF, Altmetrics 情報提供と評価
- * インストラクション, コンサルタント

学術コミュニケーションシステム変革

- 機関リポジトリ

研究者の成果の公表, 流通

➡ OAの役割

- データ管理, 保管

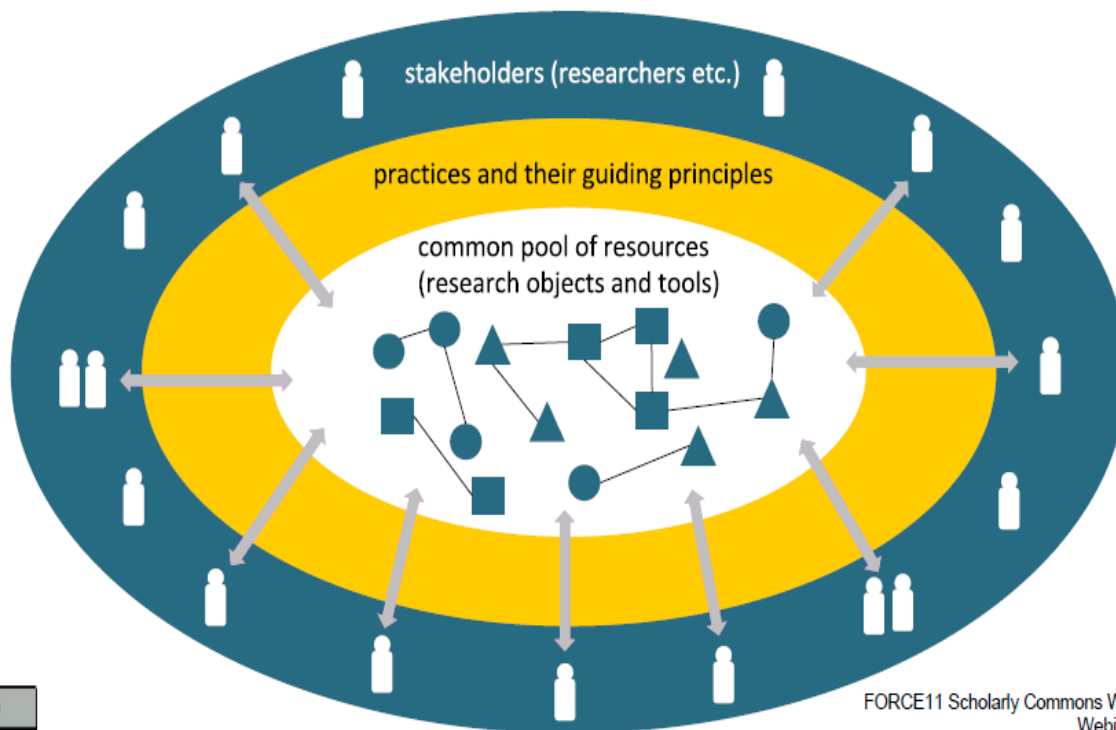
研究者のデータ保管の大学は少数

➡ 既存のデータアーカイブとの関係

* 学術コミュニケーション生態系に
おける位置づけをどう考えるか

Scholarly Commons

Are we ready to define **The Scholarly Commons**?



オープンで共有
を原則とする
システム構築を
目指す

大学図書館に
とっての理念に
なりうるのか？

研究情報管理(RIM)



CRISとCERIF

(COMMON EUROPEAN RESEARCH INFORMATION FORMAT)

